



警告のニューズレター「角笛」

発行日:2015年4月発行(第60号)

発行:警告の角笛出版

価格:100円(送料込みで200円)

角笛 HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

〔目次〕

◎巻頭メッセージ:「太陽を着る女」 エレミヤ

◎証:誓い

◎お知らせコーナー:「新刊本の紹介」「日曜礼拝&HPのご案内」

〔巻頭メッセージ〕

「太陽を着る女」

by エレミヤ

今回は、「太陽を着る女」として、この件をメッセージしていきたいと思います。テキストはヨハネの黙示録12章1～9節の箇所です。

この聖書箇所を一節ずつ見ていきましょう。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録12:1

12:1 また、巨大な星が天に現われた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。

聖書はたとえによって書かれています。特に黙示録は、そうです。太陽を着て月を足の下に踏む巨大な女など実際には存在しません。たとえを理解してはじめてその意味合いが分かってきます。主は以下のようにたとえにより、クリスチャンが区分されることを語っておられます。

〔聖書箇所〕マタイの福音書13:10-13

13:10 すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに言った。「なぜ、彼らにたとえでお話しになったのですか。」

13:11 イエスは答えて言われた。「あなたがたには、

天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていません。

13:12 というのは、持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は持っているものまでも取り上げられてしまうからです。

13:13 わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。

ここを読んで分かるように聖書、特に黙示録がたとえで書かれているその理由は、クリスチャンの間に区分を行うためなのです。具体的には、御国の奥義を知ることが許されている人々には真理が開かれ、そうでない人々には閉ざされるためなのです。神を恐れ、たとえの理解を求めましょう。さてこの箇所ですが、ここと似た箇所が旧約聖書にあります。以下の箇所です。

〔聖書箇所〕創世記37:9,10

37:9 ヨセフはまた、ほかの夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また、私は夢を見ましたよ。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいるのです。」と言った。

37:10 ヨセフが父や兄たちに話したとき、父は彼をしかって言った。「おまえの見た夢は、いったい何なのだ。私や、おまえの母上、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むとでも言うのか。」

太陽を着る女 エレミヤ

<この女は天的な教会を指す>

この箇所から「十二の星」とは「イスラエル十二部族」を指します。新約で言うなら、新約のイスラエルであるクリスチャンを指すことが分かります。「太陽」「月」は父母、すなわち信仰の先祖たちを指すのです。さて、イスラエル、神の民に関して神は以下のようにアブラハムに預言しました。

[聖書箇所]創世記22:17

22:17 わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう。

ここではアブラハムの子孫であるイスラエルの民が「天の星」「地の砂」にたとえられています。ですから旧約のイスラエルも、また新約のイスラエルであるクリスチャンも聖書的には天の星、地の砂にたとえられることが分かるのです。

天の星のように天的なクリスチャンもアブラハムのすえですが、しかし地の砂のように地に住むようなクリスチャン、この世的なクリスチャン、これも一応はアブラハムの子孫なのです。

さて、先ほどの太陽を着る女に関してこの視点で見ると時にひとつ分かることがあります。それは「太陽」「月」「星」というこの女を形容することばは皆、天に属するものであることです。逆に砂、石、岩という地に属するようなことばはこの女に関して語られていないことが分かるのです。「女」とは教会を指すとえです。したがってこの女、すなわち教会は「天的な教会」を指すことが分かるのです。

この後の記述ではこの女が竜により迫害されることが描かれています。ですので、この章の言わんとしていること、描写しようとしていることは、終末の日における天的な教会、クリスチャンの苦難、艱難なのです。終末の日に関連してははっきりと理解しなければならないことがあります。それは終末の日に全てのクリスチャンが艱難に会うわけではないということです。逆に艱難に会うのは天的な教会、クリスチャン

であり、あくまでこの世と妥協しないクリスチャンが艱難に会う日が艱難時代なのです。逆に地に着くクリスチャン、この世の論理で動くクリスチャンは迫害に会いません。すなわち同性愛を認めたり、イスラム教にも救いがある、などと言う人々はその日迫害を受けるわけではないのです。

[聖書箇所]ヨハネの黙示録12:2

12:2 この女は、みごもっていたが、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。

「産みの苦しみ」とは、以下のみことばによれば、「艱難時代の苦しみ」のことです。

[聖書箇所]マタイの福音書24:8

24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。

ですので、この天的な教会は艱難時代の苦難に会います。

<世界のクリスチャンは獣の国アメリカの下で試練に会う>

[聖書箇所]ヨハネの黙示録12:3

12:3 また、別のしるしが天に現われた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。

この獣はダニエル書や黙示録13章に預言されている終末の獣の国です。この悪魔的な国は終末の日に全世界を支配し、全世界の教会を管理、服従させます。悪魔の意思を行い、全教会に反キリストを拝ませるのです。その中で、全世界の正しい天的なクリスチャンは迫害に会います。以下のことばの通り、終末の艱難は全世界に及ぶのであり例外はなく、艱難前に挙げられることもありません。すべての国のクリスチャンはその日への用意をすべきなのです。

[聖書箇所]ヨハネの黙示録3:10

3:10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。

太陽を着る女 エレミヤ

その獣の国とはどの国なのか？と問うなら、それは世界一の軍事大国アメリカです。現在しきりに正しいクリスチャンへの迫害、逮捕を進めているアメリカこそその国である、と私は理解しています。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録12:4

12:4 その尾は、天の星の三分の一を引き寄せると、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。

「星を地に落とす」とは、天的なクリスチャンを地的なもの、この世的なものとしてしまう、ということのたとえです。今アメリカではこのことが政府主導でしきりに行われています。地的、この世的な論理がクリスチャンに対して強制され、従わない者は逮捕さえされています。神の教えに従い、路傍伝道するクリスチャンは逮捕され、聖書に従って同性愛の集会に反対するクリスチャンは逮捕されています。しかしこの世の論理、地の論理に従い、同性愛を受入れるクリスチャンは拍手喝采されています。このような恫喝、逮捕、強制の中で多くの天的なクリスチャンが地に落ちつつあるのです。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録12:5

12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。

この「男の子」は黙示録11章の「ふたりの預言者」に似ています。「その御座に引き上げられた」との文章には、以下の携挙を指す表現と同じギリシャ語が使われています。したがってこの男の子が殉教、携挙されることが分かるのです。

〔聖書箇所〕Iテサロニケ人への手紙4:17

4:17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと**いっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。**

この男の子、すなわち黙示録11章のふたりの預言者は3年半の間の宣教、殉教、復活、携挙を経験します。この歩みはかつての日、ベツ

レヘムに生まれた希望の男の子であるイエス、すなわち3年半の宣教、殉教、復活、携挙（昇天）を行われたイエスと同じ歩みなのです。

＜その日には荒野、地下教会に逃げる必要がある＞

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録12:6

12:6 女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。

ここでは1260日（3年半）の間、荒野に女が逃げたことが書かれています。以下の箇所にも女が3年半の艱難時代を荒野で守られることが描かれています。したがって艱難時代においては天的な教会はその日、背教の教会を出て荒野、地下教会で神により養われることが正しいことが分かります。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録12:14

12:14 しかし、女は**大わしの翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。**

「わしの翼に乗る」ということばと同じ表現が、以下の出エジプト記にもあります。

〔聖書箇所〕出エジプト記19:4

19:4 **あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたをわしの翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。**

この箇所は、イスラエルの民が出エジプトした時の記述です。ですので、終末の日に出エジプトが再現するように思われます。「出エジプト」とはどういうことか？と言うと、エジプトで苦しんでいた神の民がそこを出て、神に仕えるという物語です。その時、エジプト王パロは決してイスラエルの民をエジプトから出させようとはしませんでした。以下の通りです。

〔聖書箇所〕出エジプト記7:16

7:16 **彼に言わなければならない。ヘブル人の神、主が私をあなたに遣わして仰せられます。『わたしの民**

太陽を着る女 エレミヤ

を行かせ、彼らに、荒野でわたしに仕えさせよ。』ああ、しかし、あなたは今までお聞きになりませんでした。

神の命令はイスラエルの民がエジプトを出て荒野で神に仕えることでした。しかしパロは神の民をエジプトから出すことを何度も拒否しました。同じようなことが終末の日に起きることが予想されます。その日、公の教会は以下のことばのようにソドム化、エジプト化します。ソドムのように同性愛を受入れ、この世的になるのです。

[聖書箇所]ヨハネの黙示録11:8
黙示録11:8 彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。

そして正しいクリスチャンがこのエジプト化した教会から出て行くことを禁じるのです。今アメリカで公の教会に連ならず、自分の家で家庭集会をしていたクリスチャンが逮捕されたり罰金を科せられたりしています。このことはまさに荒野へ出ようとする神の民をとどめるパロの行いに通じるように思います。

しかしそうではあっても、その日正しいクリスチャンへの神の命令はモーセの時と変わりません。神の命令は、その日にはかつての出エジプトの日と同じように、エジプトを出て荒野で神に仕えること、具体的には背教の教会を出て、地下教会の中で主に仕えていくことであることを知りましょう。

<主も地下教会について勧めておられる>

終末の日に背教の教会を出るべきこと、じつはこのことは終末の日の大事なポイントであり、主も以下のように同じことを勧めておられます。

[聖書箇所]マタイの福音書24:15-16
24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)
24:16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

24:17 屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。

24:18 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。

ここではたとえにより背教の教会に戻るべきでないことが語られています。ここで言う『**荒らす憎むべき者**』とは、「反キリスト」のことであり、「**聖なる所**」とは、「キリストが教会で座していた神の座」のことです。その日教会は背教し、キリストを追い出し、反キリストを神の座に迎えるようになります。その日には山へ逃げる、家の中に戻らないことが勧められています。家は神の家である教会のとえです。変質し、反キリストを迎え入れた背教の教会に戻らないことをたとえで語っているのです。「**屋上にいる者**」とは、「**仮庵の祭り**」を前提にしたことばです。「**仮庵の祭り**」とは、家の屋上や神殿の庭などにオリーブなどの木の枝で仮の庵を作る祭りです。以下のことばの通りです。

[聖書箇所]ネヘミヤ記8:16
8:16 そこで、民は出て行って、それを持って帰り、それぞれ自分の家の屋根の上や、庭の中、または、神の宮の庭や、水の門の広場、エフライムの門の広場などに、自分たちのために仮庵を作った。

この祭りは暗示的な祭りであり、家があるのにそこに住まず「**仮の庵**」を作り、そこに住むように命じられています。この祭りは「**地下教会**」を指すたとえだと理解できます。家、すなわち教会があるがそこには戻らず、屋上、すなわち**仮庵**、地下教会にとどまれ、との教えと理解できるのです。

終末の日の大事なポイントは何でしょう？それは以下のことばのように、公の教会が背教化してしまい、反キリストを拝むようになることと理解できます。

もう、教会にはキリストに基づく正しい教えも救いもなくなってしまうのです。それゆえ、その日正しいクリスチャンは荒野、**仮庵**、すなわち地下教会を作り、そこに留まるべきことが勧められているのです。

太陽を着る女 エレミヤ

〔聖書箇所〕Ⅱテサロニケ人への手紙2:3

2:3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。

＜背教の教会にとどまる者は、永遠の命を失う＞

「屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。」また、「畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。」とのことばの意味合いは何でしょうか？

その日、家、すなわち公の教会は反キリストを拝む背教の教会になります。であるがゆえに、たとえ公の教会からその日、どれほど魅力的な誘いや給料やまた高い地位などを約束されてもそこに戻るべきではないことが語られているのです。たとえ後ろ髪が引かれても、惜しいことがあっても戻るべきではないのです。なぜなら公の教会は、いずれどこもかしこも強制的に反キリストを拝むようになるからです。その結果反キリストを拝むクリスチャンは永遠の命を失います。それゆえ、どれほど魅力的な条件を持ち出されてもそこに戻るな、と主は語られたのです。

＜地下教会に、多くの啓示や真理が開かれる＞

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録12:7-9

12:7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、

12:8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。

12:9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。

「あの古い蛇」とは、エデンの園でエバをだまし、

神のことばを曲げ、永遠の命を奪った蛇に通じます。また、主に、「蛇よまむしのすえよ」と叱責された偽りの教師である律法学者、パリサイ人に通じます。すなわち偽りの教理や教えは天、すなわち天的な教会から一掃される、ということがここで、たとえで語られているのです。です。公の教会を出て地下教会を作ることは、じつは大変な恵みや主の祝福に入る歩みに通じることが分かるのです。その日大きな啓示や光が地下教会に集まる人々に与えられるようになるのです。

まとめますと、この黙示録12章の「太陽を着る女」に関する箇所では語られていることは、艱難時代において天的な教会やクリスチャンに起きることを前もって預言している箇所なのです。

要点、大事なポイントはその日、世界中の教会は獣の国アメリカの強制や逮捕、圧迫の中でキリストを捨てて反キリストを拝むようになる、ということです。それゆえ天的なクリスチャンはそこに留まるべきでなく、荒野、地下教会に出て行くべきことがたとえで語られているのです。そしてそのような歩みをするクリスチャンには大わしの翼、すなわち聖霊の守りと助けがあることが約束されているのです。

これらの約束、警告に耳を傾け、終末における正しい歩みを行っていきましょう。



自宅で聖書研究会を開いたために罰金を科せられたカリフォルニアの夫妻

誓い

「誓い」ということばを聞いて、大半の人は結婚式の時の「誓い」なんていうことを思い浮かべると思います。「健やかなときも、病めるときも、相手の人を愛しますか？」ということを見かねて、新郎新婦に牧師や神父は尋ねます。その時に、皆「はい」と答えます。逆にそうではないときに、大きな問題に発展しかねませんよね？

ちなみに、「聖書」においても、「誓い」ということばが頻繁に出てきます。そして今、話をしたことは、そのまま肯定していくならば、良い意味での「誓い」となります。両者共に同意するならば、婚姻が成立するからです。また、私たちクリスチャンはたしかに地上でも結婚するかもしれませんが、しかしそれだけではなく、この肉体の命を離脱したあと、皆キリストの花嫁になるように召されております。「そんなこと説明されなくても分かっているよ！」とおっしゃるかも知れませんが、なにぶん基本はそうなのであります。けれども・・・福音書とかヤコブ書を読むと、どうも「誓い」ということを通して「永遠の命」を失うクリスチャンがおられるようです。具体的に誰がそうなのか？なんてことは分からないのですが、しかしあわや「誓う」ことによって自分をはじめ、多くのクリスチャンが「永遠の命」を損じてしまったら大変だ！と思った次第でありまして、このように筆を走らせることになりました。よろしければ引き続き、お読みいただけたらと思います。

今年に入り、午前の礼拝でヤコブ書から「誓い」についてのメッセージをエレミヤ牧師が語られていました。その時に「これはとても大事な語りかけだから、いつか伝えなければ！」という思いが心にきましたので、そのことを話したいと思います。まずはみことばを見てみましょう。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙5:12

5:12 私の兄弟たちよ。何よりもまず、誓わないようにしなさい。天をさしても地をさしても、そのほかの何をさしてもです。ただ、「はい。」を「はい。」、「いいえ。」を「いいえ。」としなさい。それは、あなたがたが、さばきに会わないためです。

上記みことばを通して、以下のことをエレミ

ヤ牧師がメッセージされておりました。

「天」とは、「教会」のことです。ですからこのことは、「教会をさして誓ってはダメ！」ということをおっしゃられています。これから「公の教会」は、キリストを神と認めない方向へ行きます。その時に「この人は反キリストを拝むのか？そうでないのか？」が問われて、それがそのまま「誓い」になります。そんな時にクリスチャンにある種の感わしが来るでしょう。どういう感わしなのか？と言うと、「とりあえずは誓っておいて、そしてあとで悔い改めれば良い」というものです。しかしこれは「畏」になるでしょう。ゆえに「しかり」は「しかり」、「否」は「否」としなければいけません。どこかでハッキリしないとダメです。ですから、「公の教会」からは早めに出て行くようにしたいと思えます。どちらにしても「天」をさして誓うことに関して、「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」としましょう。その時に言った「誓いのことば」が、神さまにもサタンにも受け入れられてしまうからです。

突然このようなことを聞いて、すぐに納得できるかどうかは別として・・・しかしエレミヤ牧師が語っていることは、あなたが嘘ではなくすでにそういった兆候は現れています。たとえばアメリカの教会では501C3教会法というのを取り入れているそうです。それはどういうものか？と言うと、政府の言うことを聞く教会においては、税金免除の優遇を受けられるというものだそうです。一見聞くと、何だか良さそうですが、しかし聞いたところによるとその実態は、いずれキリストの復活や処女降誕を否定するものとなるようです。ですので、この法案を受け入れる＝いずれ聖書のことばを否定する、ということになります。つまりキリストに対してではなく、政府の言うことに誓い立てている、という風に神さまの前には見なされてしまう可能性が十分にあり得るのです。仮に、「政府の言うことに従います！」とことばでハッキリ誓わないまでも、しかしその法案を受け入れることが、そのまま「誓う」ことに通じるのではないかと思います。

誓い

そしてこういったことは、アメリカだけではなく、これから全世界的な規模で進められていくと思います。もちろん日本も例外ではないでしょう。日本でも、すでに一部の教会では、「キリストの救い」について否定していたり、「同性愛」の牧師を教会に招いたりしているそうです。そういうことに対して、どんな風な態度を示すのか？について、これからクリスチャンが問われる時代に入っていきますよ！というのを、ヤコブは書簡を通して2000年以上も前に語っていたのです。

ですから、もし何かお心当たりがありましたらエレミヤ牧師がおっしゃるように、そのような教会からは離れていったほうが良いのではないかと思います。ちなみに「**そのほか**」のところは、KJV訳では「他の誓い」とか「異なった神」とあります。これらのことばから「反キリスト」を連想しませんでしょうか？そして反キリストは、福音書の中では『荒らす憎むべき者』とも表現されています。そのことに関連して、かつてイエスさまは福音書の中で、「**預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。**」と言われました。「**聖なる所**」とは「教会」(公の教会)のことで、「**山**」とは「地下教会」のことを指します。要するに反キリストに席卷された教会からは出なさい！そして地下教会に入りなさい！と言っているのです。裏返すなら、反キリストに誓いを立てるような教会から出ないでそのまま留まる、というときに、そのまま「誓い」を立てることになってしまうと思います。そうすると、「さばき」に会いますよ！という結末になるのではないだろうか？と思われるのです。この「**さばきに会わないためです**」の「**さばき**」の所も、念のためと言ってはなんですがKJV訳も確認したところ、「有罪の宣告に落ちる」と書かれていました。これは恐らく死後について言われていると思います。死後、もし私たちが神さまの前に「有罪」とされてしまった場合、天の御国を継ぐでしょうか？どうでしょうか？私個人の感覚では、恐らく無理ではないか？と思います。

結論を言ってしまうと、この先、獣の国アメ

リカの教理や霊を受け入れるか否か？みことばよりも、政府の言うことや教会の方針に従うのかどうか？反キリストを拝むかどうか？要は、みことばが言うように、「誓う」「誓わない」ということが、「永遠の行き先」を決定付けてしまう可能性が十分ありますので、そのあたりを心に留めながら歩んでいきたいと思います。聖書において、意味無く「誓い」とか「山(地下教会)」について書かれているのではなく、今の、また、これからの時代を生きるクリスチャンへの警告として、こういったことが言われていることは正しくとらえていきたいと思います。「誓い」に関して、軽視することなく、その日が来たらどうするのか？について今からまじめに考えるなら、のちに慌てることはないと思います。また、聖書において、そしてイエスさまご自身が推奨されているように・・・よろしければそのような日が来る前に「**仮庵の祭り**」(地下教会)に入り、「**永遠の命**」を得ていきたいと思います。今回も大事なポイントを語ってくださった神さまに栄光と誉れがありますように。

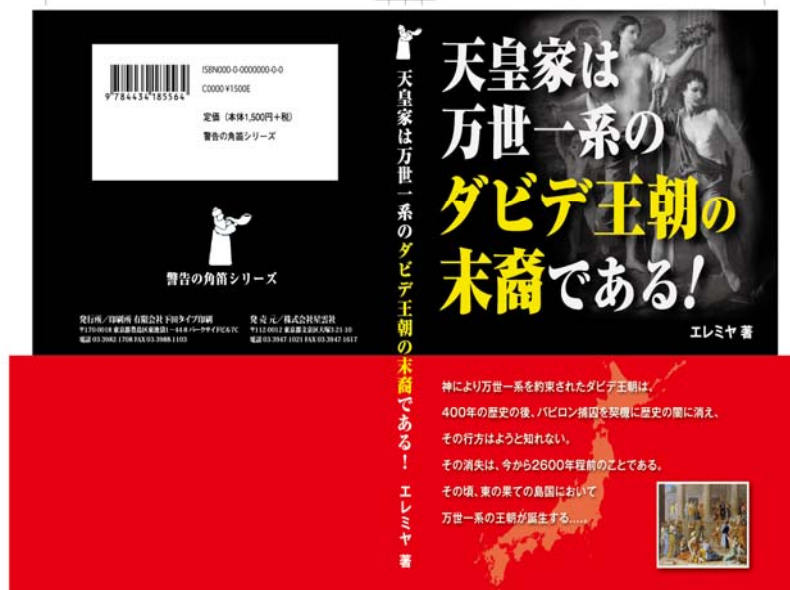


もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。

(ヨハネの黙示録14章9、10節)

お知らせコーナー

●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。

警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255

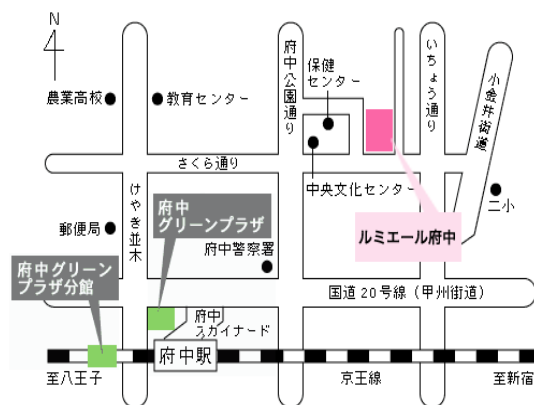
mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
午後 14:00-16:00

場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
(tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>